

American Society for Biochemistry and Molecular Biology
American Society for Investigative Pathology
The American Association of Immunologists
New Orleans, Louisiana June 2-6, 1996

インビトロにおけるMGN - 3のヒトNK細胞活性に対する効果及びインターフェロンの合成

M. ゴーナム、G. ナマタラ、C. キム、
DREW医科大学、ロサンゼルス、カリフォルニア90059
カリフォルニア大学、アーバイン、カリフォルニア92717

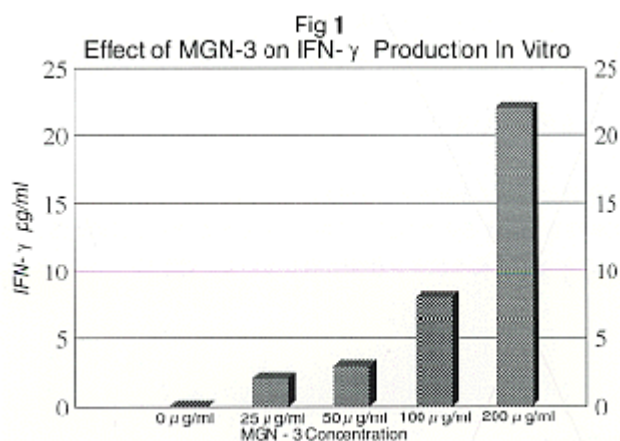
MGN - 3は、糸状菌類の菌糸由来の酵素によって生物学的に修飾された米糠から抽出したアラビノキシランである。

この研究で我々は、MGN - 3のNK細胞活性に対する効果、及び末梢血液中の単核細胞(MNC)によるインターフェロンの合成について調べた。

MNCは、健康体のヒトの末梢血液から採取され、異なった濃度に調整されたMGN - 3とともに16時間培養された。

NK細胞の活性は、K562腫瘍細胞を標的細胞とし、4時間の ^{51}Cr 遊離法によって測定された。NK細胞の活性は、0 - 100 $\mu\text{g}/\text{ml}$ の異なったMGN - 3濃度で有意に変化(2 - 5倍)した。MGN - 3によるNK細胞活性の強化のメカニズムを調べるため、我々はMNCによるインターフェロンの産生に対するMGN - 3の影響について調査した。

MGN - 3と単核細胞を培養した培養液の上清を集め、ELISA法によりインターフェロンの合成について分析をした。その結果、インターフェロンの産生が2倍以上に増加していた(Fig1)。



我々は、MGN - 3がすぐれたBRM (Biological Responce Modifier)であり、ガンの免疫療法に有用であると考察する。

MGN - 3は、大和薬品株式会社により提供された。